

令和3年度 美祢市立綾木小学校 学校評価書 校長(岡田 浩典)

1 学校教育目標

ふるさと美東を愛し、夢に向かってたくましく生きる子どもの育成

《よく学ぶ子》基礎・基本を確実に身につけ、意欲的に学習に取り組む子 《思いやりのある子》相手の気持ちを考え、優しく接することができる子 《やり通す子》最後までやり通す心や体をもった子

2 現状分析(前年度の評価と課題を踏まえて)

- (1)教育課程・学習指導
・美東小中学校として、地域連携カリキュラムやジオパーク学習カリキュラム、知徳体カリキュラム等をさらに一貫性のあるものに改善していく必要がある。
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善や協働的な学び実現のため、美東小中学校として合同学習の充実が必要である。PCを使用する機会を増やし、複式授業におけるICT活用を進めていきたい。
(2)生徒指導
・自己肯定感や自己有用感等の自尊感情を醸成するため、多様な他者とのふれあいをより充実したものにしていける必要がある。
・社会性や豊かな人間性を育てるために、小中連携、小中連携による交流学習の機会を増やし、幅広い思考力や豊かな表現力、コミュニケーション能力を伸ばしたい。
(3)保護者・地域との連携
・本物にふれる学びの質をとおして、実感を伴った学びの質を一層向上させるため、学校・地域連携カリキュラムを工夫改善、充実させるとともに、綾木ミラクル応援隊をさらに活用したい。
・PTAや地域コーディネーター、公民館等との連携を強化し、学校支援や地域貢献の幅を広げたい。
(4)人材育成・業務改善
・報告・連絡・相談をおとしたOJTによる人材育成を行いたい。情報共有を徹底し、共通認識のもと、組織的に協働できる職場環境をつくっていく。
・校務の情報化を行うことにより、DX化を推進していき業務改善に繋げたい。業務改善を常に意識し、メリハリのある働き方をしていきたい。

3 本年度重点を置いて目指す成果・特色、取り組むべき課題

- (1)確かな学力をつける ～少人数・複式学級の良さを生かし、一人ひとりが主体的に学ぶ授業を創造する～
・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進める。(交流学习、合同学習、綾木複式授業スタイル、綾木ミラクル応援隊の活用、ICTの活用。家庭・地域と連携した授業改善)
・基礎・基本の確実な定着を図る。(全校体制での朝学習の充実。「読み合いの会」や読み聞かせ、家庭での読書等による読書活動の充実。素読暗唱の推進。家庭との連携を強化した家庭学習の質と量の充実)
(2)豊かな人間性を育てる ～体験的な活動や地域の特性を生かした教育活動を行い、主体性・社会性・豊かな表現力を伸ばす～
・自尊感情や他者意識を醸成する。(多様な他者とのふれあい、自分で考えて行動、開発的指導、学校・家庭・地域の連携による「あいさつ運動」の取組の工夫。場に応じた、礼儀正しい言葉づかい)
・体験活動や交流学習を推進する。(自然体験、社会体験、ボランティア体験、ジオパーク学習の充実。小中連携、小中連携による計画的な交流学習の実施。キャリア教育の推進)
(3)健やかな体をつくる。～健康づくりへの関心を高め、体力の向上を図る～
・休み時間を活用した体力づくりを推進する。(マラソン・一輪車・縄跳び等の業間体育の計画的実施。休み時間や家庭での外遊びの奨励)
・自らの健康と安全に気をつける児童を育成する。(家庭と連携した実施と生活習慣改善のための工夫。情報モラル教育の推進、地域や家庭と連携した学校安全のための取組の実施)

4 自己評価

Table with 5 columns: 評価領域, 重点目標, 具体的方策(教育活動), 評価基準, 達成度. Rows include 教育課程・学習指導, 生徒指導, 保護者・地域住民との連携, 人材育成・業務改善.

5 学校関係者評価

Table with 2 columns: 学校関係者からの意見・要望等, 評価. Rows include 学校関係者からの意見・要望等, 学校関係者からの意見・要望等.

6 学校評価総括(取組の成果と課題)

・美東小中学校になり、地域連携カリキュラムやジオパーク学習カリキュラム、知徳体カリキュラム等を作成し一貫性のある教育をより意識した取組が行われている。今後は、より系統性や一貫性のあるカリキュラムに改良していきたい。また、小中連携活動や小中連携活動も積極的に計画実施し、多様な他者の中で活動することにより、自信も育まれている。さらにオンラインも活用しながら連携を進めていく必要を感じている。
・タブレット端末を中心にICTを効果的に活用した取組を充実させており、個別最適で、協働的な学び実現のためのよいツールとしての活用ができてきている。今後もさらに有効な活用方法を探りながら、より質の高い学習を実現させたい。
・アンケートや地域情報などから学校におけるあいさつはよくできているが、地域や家庭でのあいさつ習慣は身に付いていないと判断できる。
・開発的生徒指導を重視した取組を行っており、児童一人ひとりが自尊感情を抱き、充実した学校生活が送れるようになってきているが、評価の低い児童もおり、個別対応の充実が必要である。
・コロナ禍への対応のため、学校地域連携カリキュラムを計画的に実行できなかったが、実施できたものに関しては、実感を伴った本物の学びを得ることができ、多くの成果が得られた。学校や地域行事では地域や保護者と連携した取組ができた。
・ICTの効果的な活用や校務の情報化にともなうDXを推進した成果が表れてきた。教員の授業準備時間の短縮や時間外勤務時間の縮減に繋がっている。さらなる資質能力の向上や働き方改革が必要である。

7 次年度への改善策

- ・美東小中学校地域連携カリキュラムやジオパーク学習カリキュラム等の中で共通して取り組める内容を洗い出し、共通実践する。合同学習が行える授業等も検討し実施する。小中連携活動や小中連携活動では外国語をはじめとする活動の充実を図るとともにオンラインでの授業実践も充実させる。
・様々なタブレットを中心としたICTの効果的な活用方法を実践し、有効な実践の共有や校内研修の充実により、教員の資質能力の向上や児童の個別最適で協働的な学びに結びつける。
・礼儀やあいさつの基本指導を徹底し、地域や家庭と連携しながら、あいさつの習慣を確実に身につけさせる。
・全ての児童が楽しく充実した学校生活が送れるように、開発的生徒指導を基本に、教育相談やアンケートを有効活用し、迅速・的確な対応を行う。また、報告・連絡・相談を徹底し、組織的な対応に心掛ける。
・地域学校協働活動推進員や地域学校協働活動本部と連携し、美東地域の教育資源(人・もの・こと)を共有しながら、より実感を伴った質の高い学びの実現をめざす。
・会議のオンライン化や職員会議の効率化等校務におけるデジタル化の流れを加速させ、業務時間の縮減を実現する。実践を共有し、校内研修やオンライン研修に積極的に参加させることで教員の資質能力の向上を図る。